

## 自主調査研究報告 [継続報告]

北海道の港湾の国際競争力強化に向けた  
調査研究(継1A-2-②)

大分類	継1A
中分類	継1A-2

## 1. 目 的

政府では、農林水産物・食品の輸出額を2020年までに1兆円とする方針を打ち出しており、北海道においても道産食品の輸出1,000億円を目標とした戦略が立てられている。

既に宗谷地域のホタテの欧州への輸出や、根室のサンマをベトナム等へ輸出するなど、道産品の輸出実績が増えてきている。これらの農水産品は、迅速・低廉に輸送されることが望ましいが、現状では、北海道の港湾からのダイレクトな輸送があまり出来ておらず、長時間輸送や高い輸送コストを強いられている。

北海道は、極東ロシアに近接していることや、アジアの中で北米に最も近いこと、さらには最近注目を浴びてきた北極海航路利用により欧州にも東アジアの中で最短の航路を形成できることなどの地理的優位性がある。こういった地理的優位性を活かし、北海道からの海外の港湾へのダイレクト航路を確保するための戦略の検討を行い、北海道の港湾の物流における国際競争力強化のための方策についてとりまとめ、港湾管理者が行う海外へのポートセールスの支援やダイレクト航路実現に向けた活動に資するものである。

## 2. 実施内容

## 2.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

平成28年度は、平成24～27年度に実施した自主調査研究「石狩湾新港を事例とした道産食品の国際物流戦略に関する調査研究」を基に、道産食品の輸出にあたってのダイレクト航路検

討にあたっての課題と北海道の港湾における可能性について検討するとともに、港湾管理者等からの情報収集を行う。

## 2.2 北極海航路の活用に関する調査研究

北海道港湾の利用促進を目的に北極海航路に関する情報収集および情報発信を行う。

## 3. 主要な結論

## 3.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

H28年度は既往の調査結果を参考に現状の道産品の輸出状況を把握し、着目すべき品目および航路を検討した。

また、情報収集として、稚内-コルサコフ航路の運営会社(北海道サハリン航路㈱)へのヒアリングを実施し、今後の可能性について検討した。

## 3.2 北極海航路の活用に関する調査研究

関連するセミナーへの参加を通して情報収集を行った。日中韓による北極海航路関係国際会議(NARAC)に現地事務局として携わり、7月に札幌市内にて開催した。

また、ロシア語 web サイト等から収集した情報を翻訳、整理し「北極海航路通信」としてH28年9月よりセンターホームページでの発信を開始した。

## 4. 今後の対応

## 4.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

H28年度の検討内容をさらに深め、実現性の高い港湾におけるダイレクト航路確保のための戦略と対応策を検討する。

#### 4.2 北極海航路の活用に関する調査研究

次年度も継続して情報収集を行い、検討内容を深める。

また、「北極海航路通信」も継続して発信していく。